

マーケット展望

日本株式市場

本日2月22日、米国の政策金利の引上げが遠のいたことから、日本株が買われている。しかし、力不足感が否めない。もう少し上昇する可能性は高いが、追いかけて買う必要はないだろう。

ところで、何ヶ月か前、東京電力を買い推奨した(2,200円の水準)。現時点で、利喰い幅は小さいが、いったん手仕舞(売り)を推奨する(再度、安い場面での買い場があるだろう)。

日本株の今後を予想すると、リーマン・ショック後の安値(6,994円)を再び割ることはないと思われる。今年の後半に、再度株式市場が下落し、日経平均が7,000~8,000円程度まで下げるかもしれないという不安があったが、その可能性は低くなったと思われる。したがって、当面の日経平均レンジは、9,300~13,000円程度で推移すると見られる。下落しても、下値のメドは9,000円程度と思われるが、仮にその水準まで下げた場合は、買いのタイミングだろう。

現在、注目している分野は「太陽光」と「地熱」である。個別銘柄では、三菱重工、三菱電機、東芝、日立が挙げられる。しかし、今回のレポートでは、トヨタ自動車を買って推奨したい。悪材料はほぼ出尽くし、今後の下げ場は、目を瞑ってでも買っていききたい。次の下げ場が、買い場の到来だと思っている。

株式は、どれほど良い銘柄でも、買いタイミングが重要である。安いときに買っていききたい。

為替について

米国で公定歩合が引き上げられた一方、物価の落ちつきから、政策金利の引き上げは当分先と見られる。したがって、為替も当分は安定的に推移し、85~95円のボックス圏が予想される。

New-S Securities

Market Outlook

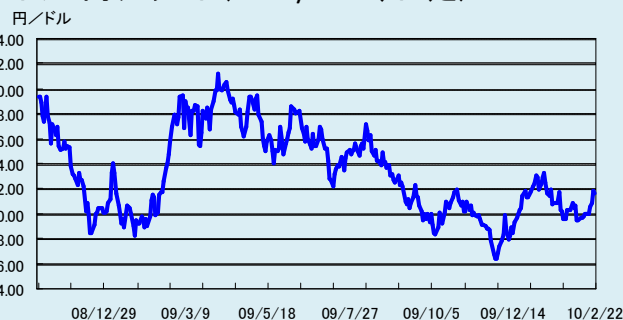
■ 日経平均株価(2008/11~、週足)



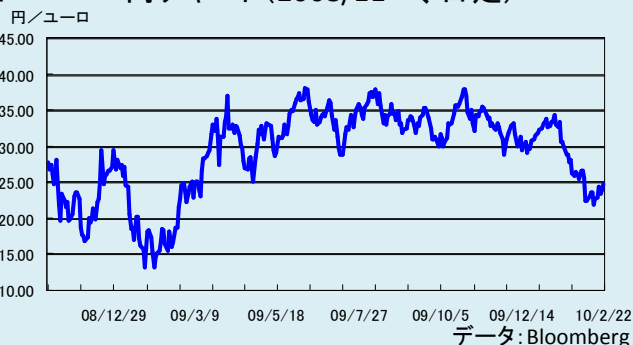
■ NYダウ平均(2008/11~、週足)



■ ドル-円チャート(2008/11~、日足)



■ ユーロ-円チャート(2008/11~、日足)



データ: Bloomberg

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会

主な事業 金融商品取引業

●本資料は、作成者の個人的見解を反映したものです。●本資料は、信頼しうる情報に基づいて作成されていますが、その確実性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。●金融商品は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。●金融商品へのご投資には、基本取扱手数料等が必要です。■国内株式 売買取引手数料(約定代金×1.150%)×1.05~(約定代金×0.075%+785,000円)×1.05 ※最低手数料2,625円●金融商品の売買にあたり、円貨と外貨を交換する場合には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。